2013 年　9 月　13 日発行（通算第 69 号）　発行　高橋 光夫方　呑川の会

連絡先　〒145-0061　大田区石川町 1-26-8

のみがわ

呑 川 の 会　HP
http://home.t07.itscom.net/nomigawa/【第 1】
http://nomikawa.la.coocan.jp/【第 2】
高橋会員　http://homepage2.nifty.com/aoiyume/
e-mail　mitsuo.takahashi@nifty.com

渋谷川・古川 ウォーキングの案内

記　白石　琇朗

（協力・大田　廣）

＊集合日時：11 月 9 日（土）９時半・ＪＲ山手線 原宿駅改札口
＊解　　散：15 時・竹芝桟橋（浜松町駅）
＊散策順路：歩程・約８キロ
＊雨 天 時：朝のみ雨、途中からの小雨は歩きます。　連絡：白石 090-6044-7275
＊コ ー ス：
原宿駅 → 明治神宮御苑・清正井 →原宿駅竹下口 → 竹下通り・フォンテーヌ通り → 表参道 → 隠田川跡 → 明治通り・渋谷駅 → 並木橋 → 恵比寿・たこ公園（昼食・ＷＣ）→ 天現寺橋 → バス・二之橋 → 一之橋 → 芝園橋 → 浜崎橋 → 竹芝桟橋

渋谷川の源流の一つに明治神宮御苑内の南池の奥に「清正井」があり、こんこんと水が湧いている。谷と最奥の湧水地といった地形が都心周辺で最も実感できる地点である。流れは参道の下を横切り境内を出た所で、駅のホームの真下を潜り地下の暗渠を渋谷駅まで流れる。渋谷駅からは開渠で明治通りに沿っているが、川に面した道はない。並木橋の高度処理水の放流口を見て、川に面した「たこ公園」で日比谷線からの湧出水の放流口を見ながら昼食です。天現寺までは川跡や支流との合流部や護岸からの湧き水が見られます。

天現寺からは川の上に高速道路がかぶさっているので、バスで二之橋まで乗車します。一之橋（麻布十番）には地下調節池の建設現場があります。中之橋から芝園橋までまたバスに乗り、歩いてＪＲのガードを潜って浜崎橋に出ると河口が見えます。

呑 川 に 合 流 す る「流 れ」考　８
～ 池上地区の流れ ～

記　白石　琇朗

寄立美江子

上駅から本門寺の参道を歩くと左側に①「六郷用水物語」の標識と緑道があり、葛餅池田屋裏の「池上本門寺参道」とある所を流れていた。②呑川に架かる霊山橋を渡り、左少し先に③「洗足流れ・池上用水」が呑川に流れ込んだ跡の緑のフェンスがある。石段を上がり　本堂裏手の紅葉坂を下り朗峰会館に入ると、④**「松濤園」**の池が展望できる。出て左に行くと


⑤

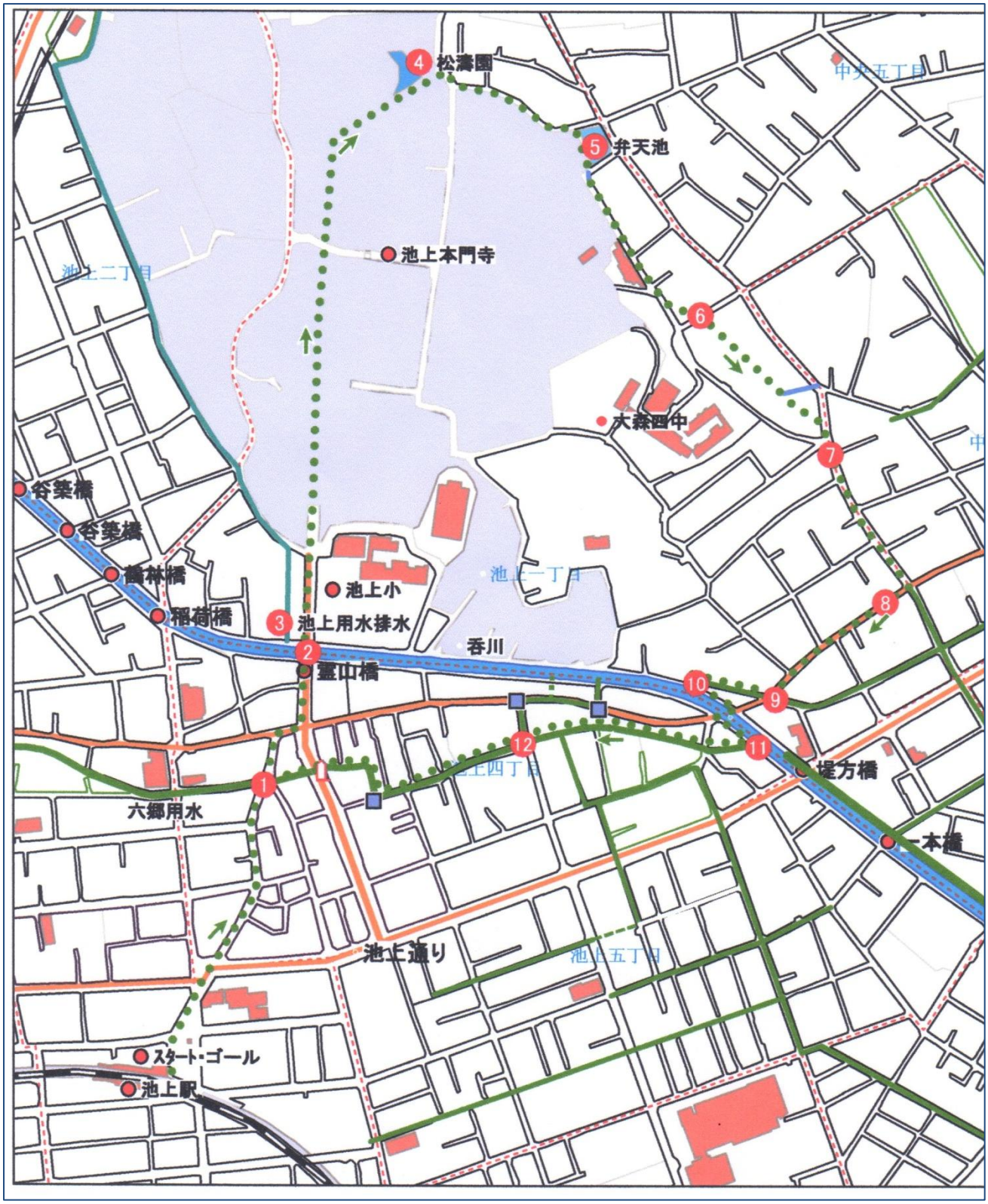
松濤園の池からの流れ口跡があり、そこから本門寺公園の⑤**「弁天池」**まで 50 年位前は小川が流れていた。今の弁天池は井戸水が入り噴水がある。子供の頃は池からの水が公園下を流れドジョウやザリガニを捕って遊んだ。大森四中前のこんもりした緑の大きな民家と民家の境に**⑥緑のフェンス**があり、


⑥

開けて入ると表の通りに抜けられる。⑦道路の右側に歩道（水路跡）が池上通りからＪＲ線路まで続いているが、私が池二小に通っている頃は流れが六郷用水へ落ち込んでいた。⑧旧池上道を右に歩くと⑨**「六郷用水・宮下橋」**の跡


⑨

に着く。右手に用水の案内板がある。用水跡の緑道を行くと、池上方面から来た用水北堀が呑川に流れ込み、⑩呑川のこの場所に堰を造り水位を上げて、この用水跡に流した場所の説明板がある。ここは引き潮になると、川底の砂利に呑川がサラサラと流れる光景が見られ鮎が発見された場所だ。呑川左岸から浄国橋を渡り、右岸の堤方橋手前にまた⑪六郷用水悪水（中土手で大森・蒲田方面へ分けた）が呑川に落ち込む場所に説明板がある。緑道を池上方面に行くと⑫3 方向に分けた「八寸」分岐の説明個所があり、昔この右道脇の流れが旧池上道に架かる「山下橋」を潜り養源寺橋手前で呑川に落ち込んでいた。更に道路右手の北堀緑道を行くと本門寺参道に戻り、池上駅へ着く。


4 松濤園
5 弁天池
池上本門寺
池上二丁目
6
大森四中
7
谷築橋
谷築橋
橋林橋
稲荷橋
池上小
3 池上用水排水
池上一丁目
8
2 霊山橋
呑川
10
9
12
11
堤方橋
1
六郷用水
池上四丁目
本橋
池上通り
池上五丁目
スタート・ゴール
池上駅

回答への協力ありがとうございます
アンケート結果のまとめ

記　福井　　甫

今回の呑川の会会員のみなさまに対するアンケートの結果がまとまりましたので、ご報告いたします。　回答は別紙のとおり

全体で 10 ページほどで簡単に眼を通すことができ、眼を通していただければそれでよいのですが、一応簡単にまとめてみました。

回答者数　　23 名（内　匿名 1 名）　　総会員の 46%

その住所分布は　大多数は呑川沿いの京急線から上流側で、呑川から転居で離れている方から 3 名回答くださいましたが、逆に京急線から下流側の方からはありませんでした。それは現在の会員で下流側の方は 1 名ということにも符合しているでしょう。

呑川の好きな場所

当然ですが、全般に地元の風景を上げていますが、本門寺前　霊山橋～浄国橋間の右手の大けやき、護岸のつた、左手の本門寺の森の風景（右の写真）をあげた人は 6 名ともっとも多い上、上流地区から下流地区まで広い範囲の会員に好かれているのがわかります。その他では雪小・雪中のさくらのある風景が 4 名と多いですが、こちらは上流地区の会員が多いようです。

呑川の嫌いな場所

悪臭が発生する西蒲田地区が多いですが、特にないと回答している人が 6 名います。

好きな樹木

圧倒的に桜。全体で 15 名の方ですが、次は本門寺付近の大けやきの 4 人（右　写真　上流を臨む)。その他　1 名でも記入された樹木はつぎのとおり。

上流から　クロガネモチ、桐の木 (以上　石川町)、ねむの木、ヒトツバタゴ・ナンジャモンジャ（以上雪谷)、ヘデラ、ツルドクダミ（池上)、サルスベリ、イチョウ、クスノキ（以上西蒲田)、コブシ、スダジイ（以上　糀谷)、梅（大森南)、ムクゲ、フヨウ



呑川の生きもの

魚については「最近・養源寺橋付近で小魚がぴょんぴょん跳ねてきらきら光って群れで泳いでいる」以外はいることはいるようだが、道路からはみにくいと残念に思う印象が強いが、鳥ははっきりわかるので「ハクセキレイ　いつでも見ることができかわいい」、「カワセミを見かけたことに驚きました」、「白さぎはよく見かけますね。あの美しいしなやかな舞いを見ることができるだけでも呑川には価値があります」など呑川の鳥たちを楽しんでいる人が多いことに気付く。呑川に蓋をしなくて良かった。

道路・橋について

全体としては車の通行を制限し、安心して歩ける遊歩道したいということでしょうが、個別的には橋の中程にテラスを設ける、橋・フェンスのデザインを高める、緑化を進める等の提案がありました。

呑川の交通手段としての利用

まだ京急の旧線路があり、上流側への舟の通行は困難で、撤去されたのちは従来より舟の利用がしやすくはなるが、現状では水量の関係もあり交通手段としては利用は難しくあまり積極的な提案はなかった。

しかし河床を掘り下げる（海老取川の河床との関係？）などして「緊急時の内陸交通手段として」の活用が考えられれば、それを突破口に展望が開けるかもしれない。

呑川を活用したイベント

みなさんがさまざまなアイデアを提案してくださり、楽しいものですがいくつかのタイプにまとめてみると次の通りです。

川の中での水遊び

ボート遊び、川下り遊覧船釣り大会、

灯ろう・精霊流し

欄干を活かした鯉のぼり

専門業者による呑川の魚調査と捕獲した魚の学校への巡回展示

呑川祭り



（会員・園江 清さんのボートから撮影
上の橋は蒲田・柳橋）

ご意見のなかには都市河川ならでは風景を活かした企画という提案がありましたが、ま

さにそのようなことでしょう。呑川での精霊流しのかたちをみんなで考えたいと思います。

呑川の改善したい点

　数が多いのは悪臭対策 13 名、
その他ユニークなものとして、呑川を 2 段構造にして上段を本来の呑川の流れ、下段を下水道とするとの提案がありました。

呑川の会として期待する活動

概略　次のとおりです。
呑川ウォーキング
　支流巡り
　一般区民向け散策ガイド等
　水と触れ合う活動
　ゴムボートで桜見物
研究・調査
　呑川の歴史発掘・調査
　人々のくらしと呑川の関係を明らかにする研究
　小さな改善で現実的可能性のある生きものの増加対策
　流域全体の水循環（浸透・水源涵養含め）の勉強会
　10 年先、30 年先の呑川グランドデザインの作成
他の市民団体等との連携
　他の水系ネットワークとの協働
　他の団体との連携した催し
　区役所の人だけでなく、区会議員を含めた話し合いの場を
　沿岸住民との交流

　大勢の会員の皆さまから回答が寄せられたため回答の幅も広がり大変興味深いものとなりました。
　今後は皆さまから寄せられたアイデア・提案についてはいくつかの分野に分け、それぞれまとめ役を決め具体的に推進できればと思っています。その際は　またご協力をお願いいたします。

「呑 川・鯉 の ぼ り 流 し」が
提起したもの

記　　高橋　光夫



先日（2013/8/25）の「池上祭」では、「呑川」に「鯉のぼり」を吊して、道行く人に「呑川」に大いに関心を抱いていただく予定でしたが、残念ながら当日は雨になり、断念せざるを得ませんでした。
その前日、「呑川の会」のメンバーが集まり、準備作業を行いました。「妙見橋」付近で、鯉のぼりの試し吊りをしてみました。見てみると、コイが大きく伸びていると、いかにも勇壮で「呑川」に映えるのです。しかし、このままコイを垂らすのは許されません。
大雨時に増水し、コイの尻尾が水に触れては、水の流れを阻害し、「洪水」の原因の一つになりかねないからです。



行政からは、護岸の「天端」から１m以内（計画高水位）に収めるように指示されています。
「洪水対策」として、「時間雨量50mm」が降っても良いように、「呑川」は川幅を広く、護岸を高くし、しかも降った雨が寄り道せず、あっという間に海に向かうよう「直線化」さえされています。
この「時間雨量 50mm 対策」は、絶対不可侵の原則ですので、それを阻害する障害物を河川内に置くことは許されないのです。しかたなく、鯉のぼりの尻尾をヒモで結び、ほぼ水平に引っ張ってロープに結んだのです。



こうして 万が一大雨になっても呑川の水と、鯉のぼりの尻尾が触れないようにしなければならなかったのです。
ここで、実際の呑川の現状を見てみましょう。
呑川の久が原地域には、大きな「置き石」が配置され、景観や生き物に配慮がなされています。
「雪谷小学校」や「雪谷中学校」の前の桜並木は、その枝が大きく川に垂れ下がっています。



誰もが枝の垂れ下がりに感嘆し、桜の時期の美しさに見とれます。
もちろん、「時間雨量 50mm」もの雨が降れば、流れる水は枝に触れるでしょう。
木の枝は水に触れて良いのに、鯉のぼりの尻尾はなぜ・・・と思ってしまいます。
私たちは「妙見橋」から上流側に鯉のぼりを吊しますが、この「妙見橋」から下流を見れば、両岸にヘデラのカーテンがぎっしり垂れ下がり、ちょっと雨が降れば、ヘデラは水に触れます。こういうのを見れば、鯉のぼりの「尻尾」が多少触れるぐらい問題は無いはずだと思ってしまいます。



しかし、「行政」からすれば、いろいろ言い分はあると思います。河床の置き石だって、それを前提として「河道設計」されていれば問題は無いのでしょう。よく見れば、置き石は河道の中央で無く、護岸側に配置され、流路の抵抗を大きく受けないよう配慮されています。一方、そういう予定調和が無ければ、わずかな鯉のぼりの尻尾でさえ、「流路障害」となるのでしょう。
「あれがこの位だから、鯉のぼりの尻尾はこれくらいだろう」と、データも無いのに決めつけるのは危険かもしれません。
しかし、それでもなを、考慮して良い事はあると思います。
「河道設計」の一つに、水の流れがどの程度阻害されるかを示す「粗度係数」があります。３面コンクリートで障害物が少ない河道は「粗度係数」が低く、護岸に化粧板が張られていたり、河床に草木が生えていれば、水は抵抗を受け「粗度係数」が高くなります。「粗度係数」は代表的なものが調べられていて、「ハンノキ」のような樹木は、「アシ」のような草が生えていれば・・・と発表されていて、そういうデータを基にして、「鯉のぼりの尻尾」も類推出来る可能性があります。私は、柔軟に対応出来る要素はあると思っています。ただ、その前提に、「行政」と私たちの間に、相互の高い信頼関係が無ければならないのは、もちろんです。そして、「鯉のぼりの尻尾」さえも許されないのであれば、我々がこれから「呑川」で「あれをしてみたい」、「こうしてみたらどうか」などと考える、その全てのことが「夢のまた夢」になってしまうのです。

呑川沿岸（工大橋～河口）の樹木
第 19 回　木 槿（ムクゲ）

記　可児 昭雄

暦では立秋も過ぎたが猛暑が続いている中で、８月から９月まで紅紫色・白・ピンクの一重・八重と咲き誇るのが「ムクゲ」である。この花は奈良時代に日本に渡ってきた中国産で、朝咲いて夜しぼむ一日花である。

万葉集では「あさがお」と詠まれ、また「ハス」のように一日でしぼむため「キハチス」、また一日で咲き終わるはかなさで「夕影草」と言われている。そして茶花として使用され、特に白い花に底紅が色づいているのが好まれている。

韓国では国花になっている。ハワイでお馴染みのハイビスカスも同じ仲間である。呑川沿いでは島本橋右岸に連なっている呑川緑道沿いにあり、池上橋より下流を歩くと何気なく所どころに咲いている。



＊写真撮影：一本橋～上堰橋（左岸）　白石琇朗

＊ムクゲ（木槿）、ハチス
・アオイ科
・生 垣 樹

＊参考文献：

・「文字の風景」
野呂 希一　青菁社
・「万葉植物」
小清水卓二　三省堂
・「茶花の話」
西条　一三　淡交社

池上小学校に「呑川の会」掲示板
設置できました！

記　工藤 英明

昨年来、池上小学校（窓口＝副校長）と呑川の会掲示板の設置について、白石さんがお願いしてまいりましたが、今年１月に当時の副校長さんにご了解を頂戴しながら、工藤が掲示板作成に手間取っていました。そうこうする内に、副校長先生が３月末に他校へ異動してしまい、３月には、やっと掲示板作成できた時は、遅かりしでした。その後、待つこと数か月。白石さんが池上まつりの関係で、島田新副校長と接触の機会も増え、この間の事情を説明しやっと、８月中旬にご了解を貰いました。８月２３日に数年来念願だった池上小学校のフェンスに「呑川の会掲示板」が設置出来ました。翌２４日に池上まつりの一環で、呑川に鯉の



ぼりを吊るすことになり、準備に当たった会員の方々には、見て頂きました。これで呑川に面する全ての小学校（上流から雪谷小・池上小・池上第二小・蒲田小）と、醍醐倉庫の５ヶ所に「呑川の会・掲示板」が出来たことになります。呑川の会の皆様におかれましては、この近くをお通りの時には、是非ご覧頂きたく、よろしくお願いいたします。但し、呑川の側道（河川管理道路）に面しておらず、池上小裏門近くのフェンスに設置されています。出来れば近い将来、呑川に面した場所に移転させられれば、と思っています。

「呑 川 講 座」の ご 案 内

記　工藤 英明

この度、大田区（教育委員会・社会教育課）の全面的なご支援を頂き、「区民の区民による連携講座として、呑川講座（含む上流・下流ウォーク）を開催する事になりました。
講座は、多くの区民に呑川を知ってもらい、「ふるさとの川」呑川を目指し、運動を一緒にする仲間を増やしたいと思い、企画しました。「ふるさとの川」とは、「悪臭やスカムの無い綺麗な川」「上から見るだけでなく、水辺に降りて遊べる川」「最上流まで魚や鳥が住める川」「大田区民の憩いの場となる呑川」などです。

講座の日程は、第１回が１０月３１日(木)から全５回で毎週木曜日午後２時～４時です。最終日は１１月２８日（木）です。詳しくは、別紙受講者募集チラシをご覧ください。
呑川の会々員様には、この会報「のみがわ」に同封します。また、受講者募集チラシは、図書館・文化センター・区の施設に配布されますので、ご近所の方々・知り合いの方々にも、ご覧頂き、この講座への参加をお誘い頂ければ幸いです。

この講座のプログラムは、2004 年発行の「呑川は流れる」の全面改定版の心算で、担当の講師が執筆中です。あまりに学術的過ぎにならず、各種イラストやカラー写真を多用し、見やすく・読みやすい現代表現のテキストにすべく、鋭意努力中です。

【 編 集 後 記 】

長かった猛暑もどうやら秋の気配を感じられるようになりました。この秋は呑川ネットと共同の、大田区との意見交換会、呑川ウォーク、独自の呑川連続講座、都市河川ウォークなどのいろいろな行事が取組まれます。夏の疲れを取り体調を整えて、呑川の未来・夢にむけて一歩一歩進めていきたいと思います。